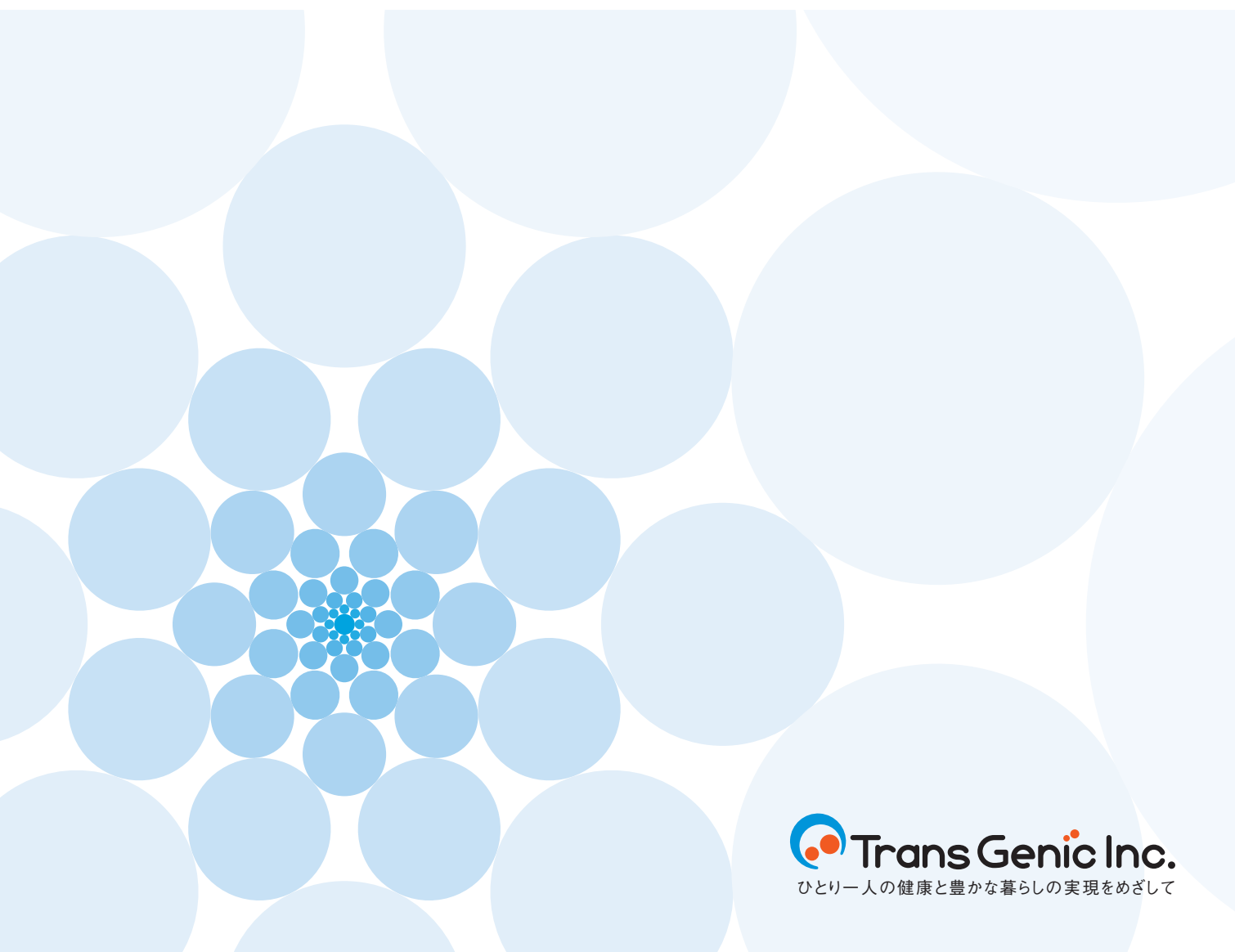


株主のみなさまへ

第12期報告書

2009年4月1日～2010年3月31日

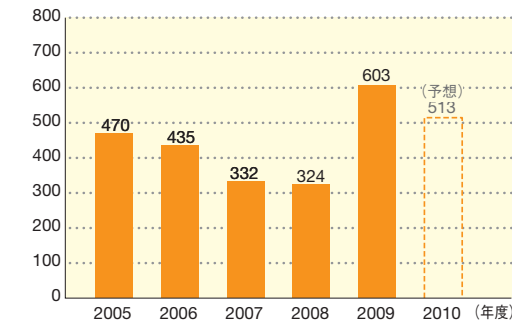
株式会社トランスジェニック 証券コード2342



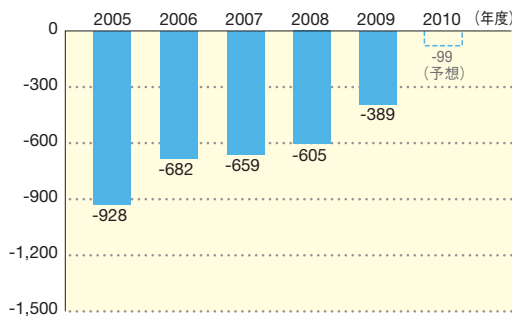
 **Trans Genic Inc.**

ひとり一人の健康と豊かな暮らしの実現をめざして

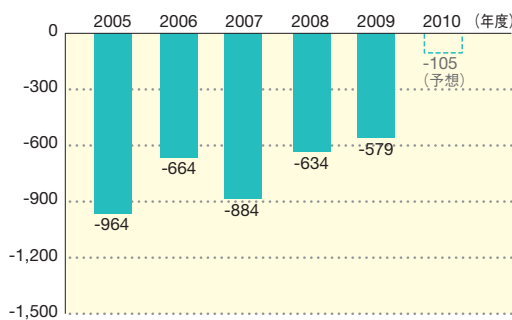
▼売上高(単位:百万円)



▼経常損益(単位:百万円)



▼当期純損益(単位:百万円)



概況

当社は、平成22年3月期において、収益基盤の確立を目指し、主力事業の強化、研究開発テーマの絞り込み、業務の徹底的な効率化および全社的なコスト削減を行いました。この結果、当連結会計年度の当社グループの売上高は603百万円(前年同期324百万円)、営業損失は385百万円(前年同期624百万円)、経常損失は389百万円(前年同期605百万円)、と業績を改善することができました。しかしながら、食品事業において242百万円の減損損失を特別損失として計上し、当期純損失は579百万円(前年同期634百万円)となりました。

セグメント別業績状況は、遺伝子破壊マウス事業は遺伝子情報売上(TG Resource Bank®)および受託事業が順調に推移し、売上高は190百万円(前年同期145百万円)となりました。また、作業の効率化に努めた結果、営業利益36百万円(前年同期は営業損失37百万円)と大きく改善いたしました。抗体事業は、自社開発抗体製品の研究に注力した結果、既存の抗体製品販売は前年同期並に推移したものの、売上高は51百万円(前年同期80百万円)となりました。また、新抗体製品の自社開発および新規バイオマーカーの創出にかかる研究開発費を計上したことから、営業損失は99百万円(前年同期59百万円)となりました。試薬販売事業は、サイトカイン販売が好調であったことから、売上高92百万円(前年同期67百万円)、営業利益5百万円(前年同期は営業損失59百万円)となりました。その他事業は、創薬支援サービスの売上が好調に推移した結果、売上高48百万円(前年同期31百万円)、営業利益10百万円(前年同期は営業損失4百万円)となりました。食品事業は、天候不良による生産量への影響および市場回復の遅れを受け、業績は伸び悩みました。この結果、売上高は221百万円、営業損失は62百万円となりました

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第12期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、生命資源の開発・活用を通して社会貢献することを経営の根幹として、事業を推進しております。事業推進にあたっては、「創一流」の創業精神に立ち返り、ライフサイエンスツールを創造提供し、企業価値を高めて参ります。

当社は、全従業員が当社の取り組む事業を、疾患等の本態解明の端緒となることに社会的使命を感じて日々業務に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、このような当社の取り組みをご理解いただき、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月 代表取締役社長

山村 研一



Profile 略歴

- 1948年 10月 10日生まれ
- 1986年 4月 熊本大学医学部附属遺伝医学研究施設 教授
- 2000年 4月 熊本大学発生医学研究センター(現発生医学研究所) 教授 現任
- 2002年 8月 株式会社トランスジェニック 取締役
- 2009年 11月 熊本大学 副学長
- 4月 熊本大学 理事・副学長 現任
- 熊本大学生命資源研究・支援センター教授 現任
- 株式会社トランスジェニック 代表取締役社長 現任

Contents 目次

連結決算ハイライト	1	事業のご紹介	5	会社概要	11
ご挨拶	2	研究開発のご紹介	7	株式の状況	11
トップインタビュー	3	連結財務諸表	10	株主メモ	11
				IRからのお知らせ	11

Q1 平成22年3月期の業績について
総括をお願いいたします。

当連結会計年度における創薬支援事業市場は、主たる顧客である国立大学・公的研究機関の法人化以降の、研究分野・研究内容のテーマ絞り込みや行政の科学技術関連予算の見直しによる研究費抑制の影響を大きく受けることとなりました。また、製薬企業にとっては、医療費抑制による医療用医薬品市場の伸び率鈍化および大型医薬品の特許切れ（2010年問題）など、厳しい経営環境が継続しております。このような状況の下、当社グループは主力事業である遺伝子破壊マウス事業の営業力強化および業務の効率化に努め、役員報酬を始めとする管理部門人件費を削減し、損益を大きく改善いたしました。研究開発につきましては、国立がんセンターとの共同研究において、新規膵臓がんマーカーに対する抗体を創出し、診断薬への開発を進めております。また、公的研究機関との共同研究において、自社開発抗体の評価を行い良質な抗体の作製に取り組んでおります。知的財産戦略につきましては、平成21年6月、新規膵臓がんマーカーに関する特許が国内で成立いたしました。また、GANP[®] マウス技術に関する特許が平成21年4月に欧州で、平成22年1月および平成22年3月にそれぞれ日本と韓国で成立いたしました。さらに、トラップマウス技術に関する特許が平成22年3月に欧州で成立いたしました。

Q2 尿中がんマーカーの米国特許成立のリリース
がありました。尿中がんマーカーの進捗状況
をお聞かせください。

尿中がんマーカーの進捗状況は、現在診断薬メーカーにて、2008年7月に当社と診断薬メーカーで締結いたしました「尿サンプルによる癌診断に関するライセンス契約」に基づき、体外診断薬として上市に向け進行しております。本技術に関します特許は、2006年6月に国内で成立しておりますが、2010年4月の米国特許成立は、将来的に尿中がんマーカーの米国展開をサポートするものです。

Q3 今後の研究開発に対するお考えを
お聞かせください。

研究開発テーマについては、基本は利益率重視ですが、中長期的な展望も視野に入れ、選択と集中で更なる絞り込みを行います。また、当社が培ってきた技術を活かせる事業領域に立ち返り、その領域の技術基盤の強化を図ることに注力いたします。具体的には、マウス事業の技術導入による新サービスの提供、および抗体事業においては、免疫動物種の追加など既存サービスの拡充を図ります。また、尿中がんマーカーに続くバイオマーカーの探索を、外部研究機関との連携により継続し、実用化および事業化につなげてまいります。

当社は、研究者の皆様にとって訴求力のある付加価値をご提案することで、企業価値を高めて参ります。

Q4 最重要課題である黒字化と、その後の継続的
な成長に向けてどのような戦略を展開される
かお聞かせください。

平成22年3月期において、6年ぶりの増収および経常損益ベースで6年連続の赤字幅縮小となりました。これは、主力事業への経営資源の注力、研究テーマの絞り込み、業務の効率化および全社的なコスト削減による体質改善の効果が現れたものと認識しています。事業別においては、マウス事業、試薬販売事業、その他事業において営業利益を計上することができました。今後、検証に基づき策定した基本方針にのっとり事業の選択と集中を徹底し、収益基盤を確立し、早期黒字化を達成します。また、既存事業の拡充に加え、腫瘍マーカー関連のライセンスビジネスを発展させることにより、年間成長率15～25%を目標としてまいります。

Q5 株式会社果実堂との業務提携解消について
お聞かせください。

当社は、有機栽培ベリーーフを主力製品として展開している果実堂と、平成21年4月に資本参加を含む業務提携を行い、当社の持つ遺伝子解析技術や抗体を用いた診断技術と、果実堂の持つ機能性分析技術をもって、食品分析分野等におけるシナジー事業創出を目指して、1年間検討してまいりました。しかしながら、シナジー事業推進が当初予定より

難航し収益化に時間を要する見込みとなり、両社とも、それぞれの各事業セグメントに経営資源を投入し専念することが、双方にとって有益との判断に至った次第です。よって、平成22年度より食品事業を中止といたします。なお、事業シナジーを検討する上で確立しました食品分析技術は、TG社の技術資産となっております。

今後、当社は、既存主力事業の更なる拡充と、社会的要請の高い癌マーカーをはじめとする診断薬に向けたバイオマーカー創出および癌マーカー関連のライセンスビジネスに注力してまいります。

Q6 最後に株主の皆様へ
メッセージをお願いいたします。

平成23年3月期においては、売上増加および損益改善により黒字化を短期的視野に捉えます。具体的施策としては、営業力強化、ライセンスの早期収益化などによる売上増加、さらに各事業における作業工程の効率化による損益改善を実施します。研究開発においては、既存技術の拡充(効率化、改良、他社との差別化)および外部研究機関との連携による、新規事業シーズの実用化と事業化を図ります。

以上のように、短期的視野での黒字化に向け邁進するとともに、将来を見据えた事業シーズの創出を継続する所存でございます。

何卒ご理解ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

各セグメントの取り組みをご紹介いたします。



マウス事業



▲遺伝子破壊マウス

当社の独自技術である遺伝子トラップマウス作製技術により作製した遺伝子破壊マウス750系統および遺伝子破壊ES細胞2,000系統の情報を保有し、当社ホームページ上の『TG Resource Bank[®]』および国立遺伝学研究所のデータベースとして公開し、系統ごとに使用権を供与しています。また、研究者が標的とする遺伝子を破壊したマウスの作製受託や疾患モデルマウスの提供も収益の基盤となっています。

抗体事業



▲開発抗体製品

当社のGANP[®] マウス技術を用いて、がんや糖尿病といった市場性が期待される抗体を作製し提供しています。現在、当社の研究開発による提供抗体数は約600種類にのぼります。また、研究者からの抗体作製受託も行っております。さらに、抗体作製技術を発展させ、各研究機関から得られたバイオマーカー候補分子情報に基づき開発した抗体について、診断薬を目指して研究開発に取り組んでいます。尿中腫瘍マーカー、膵がんマーカーに引き続き、各種バイオマーカーの拡充につとめています。

▼売上高構成



試薬販売事業

ライフサイエンス研究支援のための、研究用試薬販売(輸入抗体製品、サイトカイン)および情報提供を展開しています。現在、当社の取扱品目数は、25,000種類です。今後も、サイトカインを含めた研究用試薬の拡充につとめ、ライフサイエンスの支援をまいります。



▲研究用試薬

食品事業

予防医学への貢献を目的として、機能性食品の開発および機能性評価を推進しています。栄養分析の検証によりミネラル等が豊富である有機栽培ベビーリーフを主力製品として展開しています。
※食品分析事業の新規事業創出に取り組んでまいりましたが、収益化に時間を要することから、平成23年度より食品事業を中止いたします。



▲有機栽培ベビーリーフ

その他事業

創業支援の一環として、国内では入手がたいアルツハイマーやパーキンソン病の動物モデルでの薬剤評価システムを提供しています。特に、中枢神経系の医薬品開発に注力する製薬メーカーの需要が高まっています。平成22年度よりマウス事業に統合いたします。

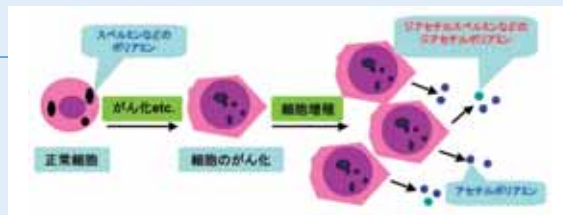


好調に推移

Keywords キーワード

尿中がんマーカー(ジアセチルスベルミン)

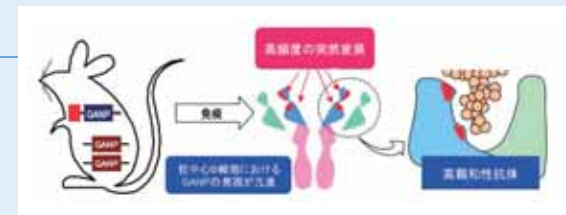
ジアセチルスベルミンは、ヒトの体内に存在するポリアミンと総称される物質の一種です。ポリアミンと総称される成分の尿中排泄量は、以前より癌と関係のあることが示唆されてきました。その中でも、ジアセチルスベルミンは、他のポリアミンと比べ、その尿中排泄量と癌との関連性が特に高いことが最近の研究より明らかになっております。



GANP[®]マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein)とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。GANP[®]マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP[®]マウスを用いて抗体を作製する

技術です。GANP[®]マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。当社は、本技術による抗体の自社製品開発、および本技術のライセンス供与を行い、抗体事業収益の柱としております。

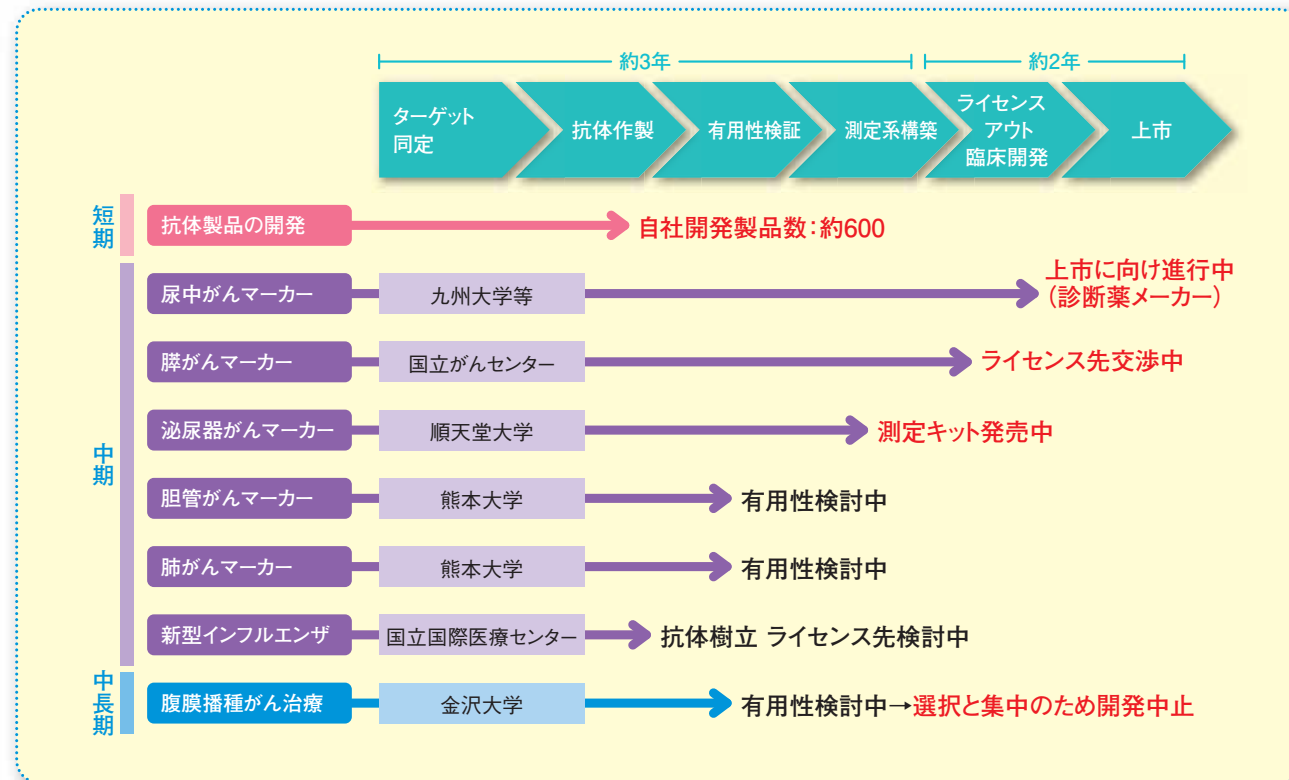


研究開発基本方針

研究開発テーマについては、収益率重視を基本に、選択と集中で更なる絞り込みを行います。腹膜播種がん治療用抗体の開発を続けておりましたが、創薬研究に要する開発コスト等を鑑み、ひとまず中断することいたしました。当社は、既存の技術の拡充、効率化および外部機関との連携によるシーズ探索に軸足を置き、収益化につながる研究開発に効率的に経営資源を投入します。



研究開発プロジェクト概要およびパイプライン進捗状況



主な特許取得マップ

トランスジェニックが保有する主な特許群は、トラップ技術関連、GANPマウス技術関連、腫瘍マーカー関連などで、当社事業の根幹となっております。



- トラップ法関連特許 米国、欧州、豪州
- 尿中がんマーカー(ジアセチルスペルミン)特許 日本、米国
- 膵がんマーカー特許 日本
- GANPタンパク質特許 日本、米国、カナダ
- GANPマウス関連特許 日本、欧州、中国、韓国、豪州

研究開発トピックス(2009.05~2010.05)

2009年5月	第6回GPCR研究会にてランチョンセミナー開催 第56回日本実験動物学会総会にて成果を発表
6月	新規膵臓がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許が国内で成立 自社開発抗GPCRモノクローナル抗体発売開始
7月	国立国際医療センターとの共同研究開発契約締結 日本ヒトプロテオーム機構 第7回大会にて成果を発表
9月	自社開発 AGEs測定キットの発売
10月	ヒューマンサイエンス振興財団とライセンス契約締結(膵臓がんマーカー関連) 第68回日本癌学会学術総会にて成果を発表 第82回日本生化学会大会にて成果を発表
11月	自社開発CD147(EMMPRIN)測定キット発売
12月	FEBS Journalにトラップマウス研究のアステラス製薬との共同研究成果を発表
2010年1月	「GANP [®] マウス技術」に関する特許が日本にて成立
3月	第83回日本薬理学会年會にて発表 「GANP [®] マウス技術」に関する特許が韓国にて成立 「トラップマウス技術」に関する特許が欧州にて成立
4月	「GANP [®] マウス技術」の高親和性抗体製造方法に関する特許が日本にて成立 尿サンプルによる癌診断の測定系に関する特許が米国にて成立

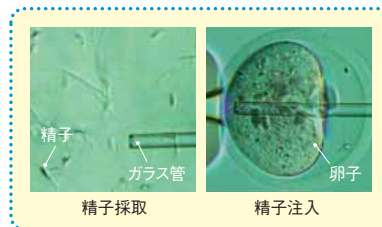
当社事業の社会還元

～胚培養士研修～

当社の基幹事業である遺伝子破壊マウス作製事業において確立された生殖工学技術は、学術的な研究から産業的な応用に至るまで様々な領域で活用されています。最近では、それらの生殖工学技術は、体外受精などの不妊治療における生殖補助医療に積極的に応用されています。当社は、マウス関連事業で培ったマウス生殖工学技術を活用し、生殖補助医療の分野で当該技術を必要とされる皆様へ技術研修を行っております。



▲研修風景



▲卵細胞質内精子注入法

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (2009年3月31日現在)	当連結会計年度 (2010年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	1,513,240	1,194,115
固定資産	721,458	610,461
有形固定資産	338,483	352,742
無形固定資産	187,563	179,384
投資その他の資産	195,412	78,334
資産合計	2,234,699	1,804,576
(負債の部)		
流動負債	114,421	158,333
固定負債	5,351	115,202
負債合計	119,773	273,535
(純資産の部)		
株主資本	2,095,253	1,516,218
資本金	4,855,225	4,855,225
利益剰余金	△2,758,189	△3,337,224
自己株式	△1,782	△1,782
評価・換算差額等	-	717
その他有価証券評価差額金	-	717
新株予約権	17,387	10,537
少数株主持分	2,285	3,567
純資産合計	2,114,926	1,531,040
負債純資産合計	2,234,699	1,804,576

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前連結会計年度 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	当連結会計年度 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
売上高	324,865	603,985
売上原価	153,861	373,210
売上総利益	171,003	230,775
販売費及び一般管理費	795,181	615,977
営業損失	624,178	385,201
営業外収益	20,330	17,699
営業外費用	1,437	22,101
経常損失	605,285	389,603
特別利益	-	11,164
特別損失	25,627	242,970
税金等調整前当期純損失	630,912	621,409
法人税、住民税及び事業税	4,405	4,928
少数株主損失	440	47,303
当期純損失	634,877	579,034

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

区分	前連結会計年度 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	当連結会計年度 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△632,156	△308,670
投資活動によるキャッシュ・フロー	514,995	△728,157
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	△36,300
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,129	△0
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△118,291	△1,073,129
現金及び現金同等物の期首残高	1,496,591	1,378,300
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	141,185
現金及び現金同等物の期末残高	1,378,300	446,357

■ 会社概要

2010年3月31日現在

会社名	株式会社トランスジェニック
設立	1998年4月
資本金	4,855百万円
従業員数	31名
事業所	
本社	熊本市南熊本三丁目14番3号
神戸研究所	神戸市中央区港島南町七丁目1番地14

■ 株式の状況

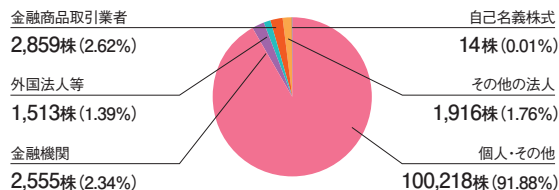
2010年3月31日現在

発行可能株式総数	436,301株
発行済株式の総数	109,075株
株主数	11,373名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
井出 剛	2,580	2.36
日本生命保険相互会社	1,350	1.23
村田 英造	1,203	1.10
大阪証券金融株式会社	1,185	1.08
野村証券株式会社	1,090	0.99
上永 智臣	954	0.87
張本 進	880	0.80
深津 英明	804	0.73
佐賀 芳行	800	0.73
中村 英幸	722	0.66

所有者別株式分布状況



役員

2010年3月31日現在

代表取締役社長	山村 研一	常勤監査役	増岡 通夫
取締役	福永 健司	監査役	遠藤 了
取締役	能勢 博	監査役	佐藤 貴夫
取締役	井出 剛		

株主メモ

証券コード	2342
上場市場	東京証券取引所 マザーズ
上場年月日	2002年12月10日
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載)
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRからのお知らせ

当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています。ご登録は当社ホームページにて受け付けています。

<http://www.transgenic.co.jp/ir/index.html>



当社のIR活動についてご意見・ご感想をお聴かせください。
下記アドレスへのご連絡をお待ちしております。

ir@transgenic.co.jp